

伊達政宗公  
誕生450年  
シリーズ  
第九回

# 政宗公の足跡を訪ねて

## —東京編—



政宗公は、現在に続く仙台の発展の礎を築いただけでなく、江戸の地にも数多くの足跡を残しています。東京に残る、政宗公や仙台藩ゆかりの地の一部をご紹介します。

### 江戸城大手門の石垣修築

江戸城の大手門は、慶長12年（1607年）に築造され、江戸時代、日本全国の諸大名が登城した門です。元和6年（1620年）、政宗公は、江戸幕府からこの大手門の石垣修築を命じられます。大手門は、侵入する敵を阻止しやすくするため、石垣で四方を囲み、二つの門を配置した柵形の形式をしており、現在の手門にもその形が受け継がれています。

他の大名の築いた石垣が工事中に崩れる中、政宗公の築いた石垣だけは何事もなく築造が完了したといわれています。

### 江戸屋敷に見る仙台藩の足跡

江戸時代には、一定期間大名を江戸に在住させる「参勤交代」などの政策が行われ、諸大名は、江戸での居住地として幕府から城下などに敷地を与えられ、江戸屋敷を設けていました。

関ヶ原の戦い後間もない慶長6年（1601年）、政宗公が將軍・徳川家康公に謁見した際に与えられた屋敷



の一つが、外桜田の上屋敷。寛文元年（1661年）までの60年間、藩主が江戸に居住する際に使用されました。この屋敷には、家康公、2代將軍秀忠公、3代家光公が訪れ、政宗公がもてなしたとのこと。政宗公は、寛永13年（1636年）5月、この上屋敷で70年の生涯を閉じました。現在、日比谷公園となっているこの地に、仙台市では、「仙台藩祖伊達政宗終焉の地」と記した説明板を設置しています。

外桜田上屋敷の他にも、いくつかの場所に仙台藩の屋敷がありました。麻布下屋敷跡・品川下屋敷跡隣接の坂道は、それぞれ「仙台坂」・「旧仙台坂（くらやみ坂）」と現在も仙台の名をとどめており、東京に残る「仙台」を感じるすることができます。

### ◆パンフレット「東京に残る伊達政宗公ゆかりの地巡り」配布中

区役所総合案内等で配布しているほか、伊達政宗公誕生450年特設サイト <http://www.sentai.jp/450th/> からダウンロードできます  
 問観光課 ☎ 214・8260



▲外桜田上屋敷跡（現在の日比谷公園）に設置された説明板



▲江戸城の大手門。現在は皇居東御苑の出入口となっており、大勢の観光客でにぎわっています



▶品川下屋敷跡隣接の旧仙台坂（くらやみ坂）

